

III 活性化の基本的な考え方

1 活性化の基本理念

狭山ニュータウンらしさを次世代に引き継ぐ

狭山ニュータウン地区では、今後も人口減少や少子高齢化の進展といった社会環境の変化などにより、まちや暮らしの姿が変化していくことが想定されます。

こうした課題は、他の地区にも共通するものですが、同一世代が一定期間に大量に入居したニュータウンの特性として、他の地区と比較して明確に、かつ急速に表れてきていると考えられます。

しかし、まちが生まれてから約半世紀が経ち、計画的に整備された都市基盤や周辺地域も含めた緑豊かな美しいまちなみなどのストックを有し、加えて活発で多彩なまちづくり活動とその担い手、そして人と人とのつながりという、長い年月をかけて積み重ねられてきたかけがえのない資源が狭山ニュータウン地区にはあります。

狭山ニュータウン地区が直面する様々な課題を踏まえつつ、これまで蓄積されてきたまちの資源や魅力を活かして、将来にわたって幅広い世代が快適に住み続けることのできるまちとなるよう、多様な主体が連携を強めながら、狭山ニュータウンらしさを次世代に引き継いでいきます。

2 めざすべき将来像

狭山ニュータウン地区が備えている資源や魅力を活かして課題解決に向かうために、めざすべき地区の将来像（「まち」の姿）を定めます。将来像は、狭山ニュータウン地区に関わるすべての人たちが連携し、地区の活性化に取り組むにあたり、まちづくりにおいて共有すべき方向を示すものです。

狭山ニュータウン地区の活性化のテーマとして、「交流」「活躍」「発信」の3つのテーマを設定し、3つの将来像において、実現をめざすライフスタイル（「暮らし」の姿）を想定します。狭山ニュータウン地区に関わるすべての人たちが、そのイメージを共有して活性化に向けた取組みを推進します。

多様な世代が暮らし、集い「交流」するまち

■ 実現をめざすライフスタイル 「暮らし」の姿

- 身近な公園等で、住民や農業者などのグループがオープンカフェやマルシェ等のイベントを行っており、交流の場となっています。
- 南中学校区円卓会議やNPO等の地域活動団体では、多様な世代が交流する機会が増えることにより、まちづくり活動を担う人が育っています。
- 地域防犯ステーションなど、地域ぐるみの見守りによって、子どもたちにふるさと意識が育まれており、将来は狭山ニュータウンに戻ってきたいという思いにつながっています。

誰もがいくつになっても健やかに「活躍」できるまち

■ 実現をめざすライフスタイル 「暮らし」の姿

- 高齢者になっても人とのつながりの中で活躍でき、日常生活を支えるさまざまなサービスを利用して、狭山ニュータウン地区で暮らし続けています。
- 近畿大学医学部附属病院は移転後も、引き続き南河内地域の基幹病院としての役割を果たすとともに、地域医療の充実に取り組んでいます。
- 誰もが健康づくりや生涯学習活動等に積極的に参加し、心身とも健やかで、いくつになっても生き生きと活躍しています。

狭山ニュータウンらしさを「発信」し続けるまち

■ 実現をめざすライフスタイル 「暮らし」の姿

- 南中学校区円卓会議やNPO等の地域活動団体など、多様なまちづくり活動の情報が発信されており、自分ごととして参加につながる機会があります。
- 狭山ニュータウン地区の魅力や生活環境、空き家等の情報が発信されており、住み替えや転入を検討している子育て世代を引きつけています。
- 狭山ニュータウンらしさである、緑豊かな住環境の魅力、多様なまちづくり活動や担い手の魅力を発信し続けており、本市のまちづくりをけん引しています。

3 将来像実現のための基本的な視点

次の5つの視点を設定し、将来像の実現に向けた取組項目を整理します。この視点及び取組項目に基づき、各主体が具体的な施策や事業を展開していきます。

視点1 新たなにぎわいやふれあいの創出

子育て世代をはじめ、幅広い世代の人々に移り住んでもらえるよう、狭山ニュータウン地区の魅力、住まいや暮らしの情報を提供するなど、住み替えや転入希望者を支援します。また、まちづくりの資源として空き家活用を支援します。世代を超えた集い交流する機会や場づくりにより、新たなにぎわいやふれあいを創出します。

視点2 子育て世代に選ばれる子育て支援・教育環境の充実

子育て世代をはじめ、若い世代に選ばれるように、子育て支援や学校教育の環境整備、地域ぐるみの青少年育成に取り組めます。また、ふるさと意識の醸成につながるよう、地域への愛着と誇りを育てます。

視点3 日常生活を支えるサービスと支え合いの展開

誰もが住み慣れた地域で、自分らしく安心して生活できるよう、必要なサービスが切れ目なく提供される地域包括ケアシステムの構築をめざします。移動販売や宅配サービス等の新たなサービス機能の誘導を図るとともに、介護予防活動への参加を促進するなど、健やかに活躍できる取組を拡充します。近畿大学医学部附属病院の移転については、移転後の医療機能を確保するため、近畿大学と大阪府との三者で協議を行います。

視点4 快適で魅力的な都市空間の形成

都市機能の維持・充実を図るために、地区計画などの活用や用途地域の見直しについて検討します。住宅の耐震改修や空き家の活用を支援し、安全・安心な住宅の普及を進めます。道路等の維持管理やバリアフリー化の推進、バス交通の利便性の向上、公園の再整備など、快適で魅力的な都市空間の形成をめざします。

視点5 地域の安全・安心の向上

自主的な防災活動の促進や防災拠点の整備充実、救急車の効率的な運用、防犯対策の充実強化によって、地域の安全・安心の向上を図ります。